

兵庫の口腔細胞診を考える - 多職種協働によるアプローチで患者の「人生」を救う -

神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理学分野

重岡 学

口腔癌は発見が遅れると、手術が成功しても咀嚼・会話・顔貌に大きく影響し、社会復帰は困難を極める。2015年に口腔細胞診ガイドラインが刊行されて以降、擦過細胞診が歯科診療所における新たな口腔癌スクリーニングツールとして注目され、細胞診専門「歯科」医を中心に診断基準や活用法について活発な議論が行われている。

一方で、細胞採取を実施する開業歯科医にはその情報が殆ど共有されておらず、認知度や普及にかなりの地域差が生じており、兵庫県においては細胞診を積極的に診療に取り入れる施設は極めて少ない。口腔細胞診の地域格差の是正・適切な運用のためには、判定サイドである細胞検査士・専門医が等しく「開業歯科医が、いま口腔細胞診にどのようなことを期待しているか」を共通認識することが重要である。

今回は口腔癌の実情について兵庫県のデータを交えて紹介する。また、口腔細胞診に関して開業歯科医からよく聞かれる疑問点についてQ&A形式で解説する。さらには、昨秋に兵庫県行政委託事業として開催された開業歯科医を対象とする細胞診ハンズオンセミナーについて報告し、「解決が急がれる課題」をお示したい。